



ごあいさつ

熊本県中学校体育研究会会長 楠木 正昭

第56回九州地区学校体育研究発表会（熊本大会）を、平成29年11月21日（火）くまもと森都心プラザで開会行事並びに講演会を行い、22日（木）に小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各4校種による部会を、熊本市内の4会場において開催しました。今大会は九州各県持ち回りで8年に1回のローテーションで開催され、2年前から視察等を派遣して鋭意準備してまいりました。今回の主題は「生涯にわたり、仲間とともに主体的に運動やスポーツに親しむ資質や能力を育む体育・保健学習」を掲げ、更に、中学校では「自ら運動の喜びや楽しみを求め、生涯にわたり健やかな心と体を育む保健体育学習のあり方」に取り組んでまいりました。中学校部会では、課業日でありながら熊本市立力合中学校を会場として提供いただき、素晴らしい環境の中での研究発表・研究授業が展開され、意義深い一時を過ごすことができました。これまでお忙しい中に準備をいただいた各研究会の理事の皆さんに感謝すると共に、熊本県学校体育研究会の組織力を発揮することができ、大きな成果を残すことができたと思っております。関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、特別講演では公益財団法人日本学校体育研究連合会会長本村清人様を講師にお招きし「知・徳・体を育む学校体育・スポーツの力」と題して、改訂学習指導要領における体育・保健体育で育てたい力は何かについてご講話いただきました。その内容は、次代を担う子供たちに求められる資質・能力として①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つが中教審答申で強調され、各教科の目標と指導内容、そして評価の観点がすべてその三本柱で構成されました（体育以外は「学びに向かう力」ではなく「主体的に学習に取り組む態度」と言う）。学術的に一貫性のある良い改訂だと思えます。その一方で、学習現場にとっては、新たな課題である評価の観点とその形成的評価や総括的評価について大きな課題を投げられたと言えます。特に体育にとっては、「知識・技能」が一括りになって評価の観点が示されたことによって、日々の授業実践でどのように指導と評価の一体化を図っていくか、中学校では「知識」と「技能」のバランスをどのように取りつつ指導し、評価していくか。今後予定されている国からの評価に関する参考資料を待つだけでなく、課題意識をもって授業実践に取り組んでいく必要があることを、ご指導いただきました。これからの指導に活かしていかなければと思っております。

これから中学校の現場は、大きな変革の時期を迎えています。一昨年熊本地震を経験し逆境を乗り越えてきました。激動の一年間を各郡市中体研の先生方と共に取り組んでいただいたおかげで、素晴らしい成果を残すことが出来ました。熊本県体育人の組織力の賜であると思っております。そのご苦勞に心より深く感謝申し上げます。

終わりに、日頃から本研究会並びに保健体育教師への多大なるご指導とご支援いただいております熊本県教育庁教育指導局体育保健課をはじめ、温かいご支援・ご協力をいただいております関係各位に心から感謝申し上げます、あいさつといたします。